

## 令和3年度ヘルステクニカルトレーニング開催要項

### 1. 目的

日本赤十字社の病院 ERU は令和3年度に整備完了の予定であることから、これまで以上に災害外傷に対する知識と技術を有する国際救援・開発協力要員の増員が必要であり、特に人員不足が想定される災害現場においては、職種や専門性を越えて必要な医療支援を行うことができる医療職の育成が重要である。

本研修は、災害時の主な外科系疾患とその治療・看護に必要な知識を深めると共に、実際の病院 ERU 資機材を用いながら輸血や検査、レントゲン撮影、リハビリテーションの実施に必要な知識と技術について、実技を通して習得することを目的に開催する。

### 2. 研修目標

病院 ERU 資機材を用いて、実際の現場で求められる以下の知識と技術を習得すること。

- (1) 輸血：機器類の取り扱いや安全に輸血をするために必要な知識と技術を習得し、臨床検査技師がいない場合でも一連の手技ができる。
- (2) 放射線：機器類の取り扱いやレントゲン撮影に必要な知識、技術、安全管理を習得し、診療放射線技師がいない場合でも単純撮影やその補助ができる。
- (3) 医療機器：病院 ERU 特有の医療機器の組み立て方、メンテナンス、使用方法に関する知識と技術を習得する。併せて、病院 ERU 展開時に医療機器が正常に作動するための動作確認の機会とする。
- (4) リハビリテーション：牽引等の治療及び患者の ADL 維持・拡大のために必要な知識と技術を学び、理学療法士がいない場合でも必要なリハビリテーションを実践することができる。
- (5) 災害部門：災害時、限られた医療資機材を用いて、主に四肢の外傷に対する治療、看護に関する必要な知識、技術を習得する。

### 3. 内容（概要）

- (1) 輸血の基本、機器類の取扱い、血液型判定、交差試験
- (2) レントゲン撮影、機器類の取扱い、単純撮影
- (3) 医療機器の組み立て方、使用方法、メンテナンス、動作確認
- (4) リハビリテーションの基本、ADL 拡大のための筋力リハ、断端肢のリハ、杖歩行等
- (5) 骨折治療・牽引（全参加者対象）、四肢切断・創外固定（医師対象）、ドレッシング・包帯法（看護師対象）

### 4. 開催日時

令和3年12月10日（金）9：00～12日（日）16：00 ※詳細は別紙プログラム参照

### 5. 開催会場

大阪赤十字看護専門学校、大阪赤十字病院別館 ほか

6. 使用言語

日本語 ※資料は英語を含む

7. 対象者

以下の要件をすべて満たす者

- (1) 全国の赤十字施設に勤務する医師または看護師
- (2) 国際救援・開発協力要員に登録されている者で、派遣経験のある者

8. 募集人数

24名 ※応募者多数の場合は書類選考いたします。

9. 講師／インストラクター

大阪赤十字病院	国際医療救援部長	中出 雅治
大阪赤十字病院	輸血部輸血管理課長	岡 一彦
大阪赤十字病院	輸血部臨床検査技師	村田 優
大阪赤十字病院	医療技術部臨床工学技術課長	石原 健志
大阪赤十字病院	国際医療救援部国際救援課長	池田 載子
大阪赤十字病院	外来3階看護係長	川瀬 佐知子
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	診療放射線技師主任	堀部 良美
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	臨床工学技士主任	新居 優貴
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	理学療法士	中島 久元
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	国際医療救援課長	関塚 美穂
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	看護主任	山田 則子
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	看護師	秋田 英登
熊本赤十字病院	国際医療救援副部長	岡村 直樹
栗山赤十字病院	理学療法士	鈴木 聡子
福岡赤十字病院	看護係長	川口 真由美
武蔵野赤十字病院	看護師	朝倉 裕貴

ほか調整中

10. 研修スケジュール

別紙プログラム参照

11. 事前課題

演習に重点を置いているため、極力座学は行わない予定です。事前課題を行っていることを前提とし研修プログラムを立てていますので、必ず提示された資料を読み、e-learning を視聴するようにしてください。資料は事前にメールにて提示します。

## 12. 申込方法

別紙様式により、**令和3年10月1日(金)までに**、所属施設の担当者を通して大阪赤十字病院国際医療救援部<imr@osaka-med.jrc.or.jp>あてメールにて送付すること。

## 13. その他

- (1) 参加の可否については10月中旬頃に所属施設担当者あてに通知いたします。
- (2) 研修期間中の昼食は各自でご持参ください。院内にあるコンビニエンスストアは利用可能ですが、感染対策上、院内への出入りはできる限りお控えください。
- (3) 実技演習がありますので、動きやすい服装でお越しください。  
※ギブスの実習では各自患者役となりますので、石膏で汚れてもよい半袖Tシャツを持参下さい。
- (4) 宿泊は各自で手配をお願いします。
- (5) 参加にかかる旅費等については、支部・施設所属の方は国際医療救援事業交付金の交付対象となりますので、おって申請・充当すること。なお、同交付金の旅費の取り扱いについては、平成26年9月30日付人事第445号「本社招集旅費の取扱いについて」が適用されます。
- (6) 本研修は実際の資機材を用いた実技演習に基づいていることから、病院には立ち入らず看護専門学校を会場とすること、複数会場を設け少人数開催とすることに鑑み、原則対面で実施いたします。ただし、今後の新型コロナウイルスの感染状況によっては中止または参加受入不可、プログラムの内容変更等の対応をさせていただく可能性があります。何卒ご了承ください。
- (7) 参加者には事前に健康チェック表を提出してもらい、研修中はマスクの着用、手指消毒の徹底などの感染対策、体温測定など体調管理表の記入にご協力をお願いします。

担当： 大阪赤十字病院 国際医療救援部 国際救援課
TEL: 06-6774-5111 (内線 2124)
FAX: 06-6774-5030 (国際医療救援部直通)
E-mail: imr@osaka-med.jrc.or.jp